

平成 27 年 6 月 23 日

第 10 回小説現代長編新人賞受賞作決定のお知らせ

拝啓

初夏の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨日の選考会（選考委員・石田衣良氏 伊集院静氏 角田光代氏 花村萬月氏）におきまして第 10 回小説現代長編新人賞受賞作が決定いたしましたので、お知らせいたします。

また、贈呈式は、10 月 22 日（木）、講談社 26F レセプションルームを予定しております。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

*受賞作 『ヒモの穴』

*著者名 坂上 琴（さかがみ・こと）

著者略歴及び受賞作梗概は別紙にてお送りいたします。

受賞作抄録は、「小説現代」12 月号に掲載予定です。

また、単行本は、文芸第二出版部より、来年 1 月に刊行される予定です。

●過去の受賞一覧

第一回	受賞者 ヴァンシ章絵	ワーホリ任侠伝
	奨励賞 中路啓太	火ノ児の剣——新井白石斬奸録
第二回	受賞者 田牧大和	花合せ—濱次お役者双六一
	奨励賞 火田良子	東京駅之介
第三回	受賞者 斎樹真琴	地獄番 鬼蜘蛛日誌
	奨励賞 朝井まかて	実さえ花さえ、その葉さえ
第四回	受賞者 加藤元	山姫抄
第五回	受賞者 塩田武士	盤上のアルファ
	奨励賞 吉川永青(ながはる)	我が糸は誰を操る
第六回(この回はダブル受賞です)	受賞者 長浦 京	赤刃
	受賞賞 吉村龍一	焰火
第七回	受賞者 仁志耕一郎	玉兎の望
	奨励賞 朝倉宏景(ひろかげ)	白球と爆弾
第八回	受賞者 中澤日菜子	柿の木、枇杷も木
第九回	受賞者 小島環	三皇の琴 天地を鳴動さす

平成 27 年 6 月 23 日

*受賞作：『ヒモの穴』梗概

酒を飲み過ぎて記憶をなくし、自分がだれだかもわからない男——三ちゃんは、横須賀の Snackbar で聖良（せいら）という女性と知り合う。彼女は全国の劇場をまわる有名なストリッパーだった。

聖良は本名を依子（よりこ）といい、旅公演に出ている間に、同居していた映画監督がアルコール依存症で孤独死したという辛い過去があった。そのため三ちゃんを放ってはおけず、犬と依子との暮らしが始まる。依子の助けで三ちゃんはどうか断酒することができた。

大阪での天満劇場での舞台が決まった。三ちゃんは、名前を増田三郎と決め、依子のマネージャーとして、同行する。トップで SM ショーを張る依子。だが、劇場の支配人は甘くはない。残りのステージの演目をもっと過激なものにするよう告げ、依子は必死で構成を練り直す。そんな依子に惹かれていくが、自分が何者かわからない不安とヒモのような生活から、臆してしまう三郎だった。

舞台の合間に、三郎が他の踊り子のマネージャーと将棋を指してみると、けた違いの強さだ。劇場の社長のすすめで、真剣勝負なら大阪一と恐れられた勝負師と、一局百万円を賭けた勝負に臨むことになった。

対局で三郎が指した手は、後手番初手 9 四歩という端歩を突く作戦だった。このことから、三郎は坂田三吉の孫弟子、タイトルも取ったことがある A 級棋士の升田三吉八段だとわかる。休憩中に勧められるままに酒を呷る三郎。その脳裡に、かつての、賞金 2 0 0 0 万円がかかった対局がフラッシュバックする。自分は確かに升田三吉だった……。

生身の人間としての人生にしっかり心を入れて描いている、また、細かい部分のリアリティが光った、と全選考委員の意見が一致し、今回の受賞となりました。

*著者名 坂上 琴（さかがみ・こと）

1961年広島県生まれ。広島大学付属中学校・高校卒業、二浪の後、京都大学文学部入学。相撲部に入部し、主将を務める。1986年、同文学部史学科卒業。

同年4月、毎日新聞社入社。姫路・高松支局を経て、大阪社会部へ。

2012年、アルコール依存症と診断され、久里浜医療センターに入院。2カ月半、断酒治療を受ける。退院後、休職。各地断酒会に通う。

2014年6月、毎日新聞社を退社。

現在はアルコール依存症の通院治療を受けながら、失業保険を受給中。広島県福山市在住。